

# 平成30年度 那覇市在宅医療・介護連携推進事業

## 「第3回在宅医療における多職種連携研修会」

テーマ：『 独居高齢者 大腸がん終末期の一例 ～療養場所の選択について考える～ 』

発表者：沖縄県看護協会 訪問看護認定看護師

訪問看護ステーションはえばる 所長 宮城 愛子 氏

※ 参加者アンケートの集計結果は別紙をご参照ください。

○日 時：平成30年9月27日（木） 午後7時30分～9時00分

○場 所：那覇市医師会・4階ホール

○参加者：34名

(医師9名、看護師8名、保健師3名、介護支援専門員4名、リハビリ2名、  
薬剤師2名、社会福祉士2名、介護福祉士1名、その他3名)



司会：嘉数 朗 氏



発表者：宮城 愛子 氏



ミニレクチャーの様子



各グループ発表者



ディスカッション風景



多職種連携研修会 全体風景



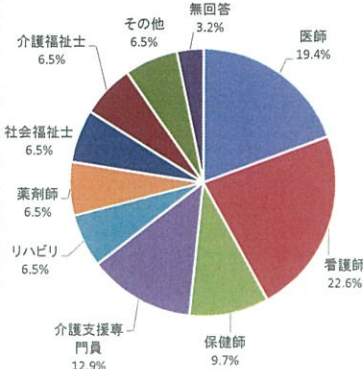
# 平成30年度 那覇市在宅医療・介護連携推進事業 第3回在宅医療における多職種連携研修会アンケート集計結果

日時:平成30年9月27日(木) 午後7時30分～9時00分  
場所:那覇市医師会・4階ホール

参加者:34名  
回答者:31名  
回収率:91%

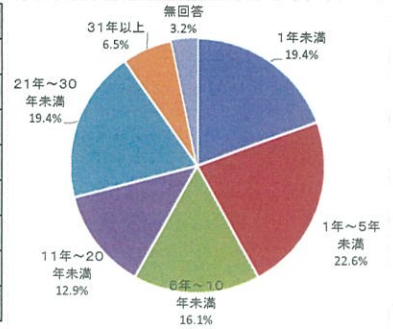
アンケート回答者の職種

職種	人数	割合
医師	6	19.4%
看護師	7	22.6%
保健師	3	9.7%
介護支援専門員	4	12.9%
リハビリ	2	6.5%
薬剤師	2	6.5%
社会福祉士	2	6.5%
介護福祉士	2	6.5%
その他	2	6.5%
無回答	1	3.2%
合計	31	100.0%



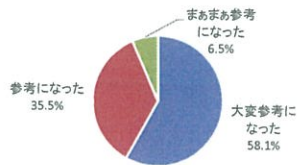
アンケート回答者の経験年数

経験年数	人数	割合
1年未満	6	19.4%
1年～5年未満	7	22.6%
6年～10年未満	5	16.1%
11年～20年未満	4	12.9%
21年～30年未満	6	19.4%
31年以上	2	6.5%
無回答	1	3.2%
合計	31	100.0%



## ①多職種連携研修会の内容について、ご意見・ご感想をお聞かせください。

選択肢	人数	割合
大変参考になった	18	58.1%
参考になった	11	35.5%
まあまあ参考になった	2	6.5%
合計	31	100.0%



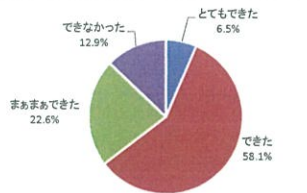
- ・グループによって違う意見・考え方があり参考になった。
- ・独居では自宅は難しいと考えやすいが、本人様はどう生きたいかを受け止め、サポートできる体制が素晴らしいと思った。
- ・多職種が連携する在宅医療の経験がなく、その考え方なども知らない状態で参加したが、すべてのことが新鮮で勉強になった。
- ・自宅で生活する大変さ、特にヘルパーさんの不安をいかに解消できるか。
- ・毎回違う職種(同じメンバーではないグループ編成)で色々な話しや意見が聞ける場面はないので貴重な経験になった。また参加して議論したい。

## ◇左記の回答について理由・感想をお聞かせください。

- ・専門職の方から経験した事も聞くことができ、抱えている課題への参考になった。
- ・訪問診療に関わる方々がどのように本人・家族と関わっているのか参考になった。
- ・ケアマネージャーとのディスカッションは有益であった。
- ・短い時間で十分な意見交換ができなかったが考えるきっかけになった。
- ・在宅・独居での看取りケースであったが、家族の思いや周りの支援する考えを色々聞くことができた。施設でも家族の思いは同じではないかと思った。
- ・多職種で議論するといろんな知恵が聞けて良かった。
- ・「自宅でも入院先でもリスクはありえるとの意見」、「本人にもリスクを説明し、その都度意向を確認していく必要性等の意見」が新しい気づきとなった。
- ・議論する時間が短く、しっかりとした議論ができなかった。
- ・家族等の支援がない場合は在宅での看取りは不可能だと思っていたが、可能であったケースの話が聞けて勉強になった。

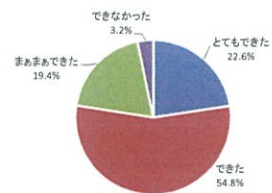
## ②ご自身の意見を忌憚なく発言することができましたか。

選択肢	人数	割合
とてもできた	2	6.5%
できた	18	58.1%
まあまあできた	7	22.6%
できなかった	4	12.9%
合計	31	100.0%



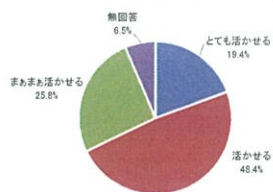
## ③多職種の状況を理解することができましたか。

選択肢	人数	割合
とてもできた	7	22.6%
できた	17	54.8%
まあまあできた	6	19.4%
できなかった	1	3.2%
合計	31	100.0%



## ④明日からの業務に活かしますか。

選択肢	人数	割合
とても活かせる	6	19.4%
活かせる	15	48.4%
まあまあ活かせる	8	25.8%
無回答	2	6.5%
合計	31	100.0%



- ・本人の意思決定を尊重するためにどのような関わり・調整が必要なのか再確認することができた。
- ・終末期ケアはこれから多く関わることになるので参考になった。
- ・プレゼンテーションが上手で症例を理解しやすかった。よくある家族関係であり、今後の臨床で役立つと思った。
- ・難しいテーマであったが、楽しく頭を悩ませることができ勉強になった。

## ⑤症例へのご意見・ご感想をお聞かせください。

- ・分かりやすく良い症例だった。在宅での看取りを不安に思う家族もいるので、良いアドバイスができそうです。
- ・同じようなケースもあるので他施設の困っていたことや状況が共有できて良かった。
- ・私のグループは本人の意思も大切ではあるが、家族の後悔までを考えていたグループだったので、看取りに対しての支援がどうあるべきか、KPや身近な家族だけが最後を看取る場合だけではなく、幅をもっと広げて家族まで話をしていた方がよいという意見だった。問題が出る場合もあるが、KPだけが負担になることもあるとの意見があり、参考になった。
- ・「人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドライン」を見て勉強します。KPが倒れることもある・・・、本人は妹宅が良かった・・・、考えさせられました。
- ・病院勤務で普段の業務ではあまり関わらないことだが、終末期で退院し、在宅へ移行する方を何回か見させてもらったことがあるので、退院後のその先についていろいろと知ることができて良かった。

平成30年度 那覇市在宅医療・介護連携推進事業  
**第3回在宅医療における多職種連携研修会アンケート集計結果**

日時:平成30年9月27日(木) 午後7時30分～9時00分  
 場所:那覇市医師会・4階ホール

参加者:34名  
 回答者:31名  
 回収率:91%

**⑥今後、どのようなプログラム(テーマ)があったら参加したいと思いますか。**

- ・認知症の夫、妻(高齢夫婦)との二人暮らしの生活を支えるテーマ
- ・末期がんではない看取り
- ・keyが多い利用者、意思決定支援の困難
- ・介護系のプログラム
- ・身寄りのない方の在宅を支える
- ・多問題家族を支える連携(保健所や障害担当の方々とも意見交換してみたい)
- ・施設内でもできる嚥下訓練・評価
- ・在宅医療を行なった患者の症例報告会(3～4例まとめて)
- ・多職種連携でうまくいった事例があれば教えてほしい。
- ・介護施設や老健における看取りはどのようになされているか
- ・ターミナルケア
- ・ACP もしバナゲーム
- ・成年後見制度
- ・人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドライン

**⑦今回の多職種連携研修会全体(手法や構成など)を通して、ご意見・ご感想等をお聞かせください。**

- ・他職種の思いや事例を開けて良かった。
- ・施設での看取り経験が少ないので発言できることは少なかったが、他職種の意見が開けて参考になることもあったし考えることもできて良かった。
- ・記録をPC入力にしてほしい。
- ・PC入力の手法よりも今回のように手書きをプロジェクターに映す手法の方が流れがスムーズで良かった。
- ・グループワークは楽しく意見交換ができるので継続してほしい。
- ・ある程度の時間のしぼりはしょうがないが、話している人を焦らさないでゆっくり話が聞きたかった。
- ・会の合間に休憩時間を5分だけでいいのでほしい。(お手洗い、多職種との名刺交換、おやつタイムなど)

**⑧今回の多職種連携研修会を何でお知りになりましたか。(複数回答可)**

選択肢	人数	割合
ちゅいしーじー那覇ホームページ	4	12.9%
那覇市在宅ケアネットメーリング	7	22.6%
ご案内FAX	17	54.8%
知人・友人などからの紹介	1	3.2%
無回答	7	22.6%
合計	36	116.1%

